

第1回 佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会

日時：令和元年11月22日（金）
午前10時00分～12時00分
場所：佐久市役所8階大会議室

1 開会

2 あいさつ

(柳田佐久市長)

本日は、ご多用のところご参集をいただき、誠にありがとうございます。

第2期高校再編にあたっては、長野県教育長から、佐久広域連合の長たる佐久市長に対し、高校の将来像を考える地域の協議会の設置について依頼がありました。それ以降、県教委と、佐久地域の状況や地域の高校の特性、地域における協議の進め方など、様々な点について協議を重ねてまいりました。また、県教委に対し、市町村の立場から必要な要望なども行い、お互いに丁寧に合意形成を図ってくる中で、協議に向けたすべての環境が整ってまいりましたことから、この度、県教委と佐久市を共同事務局として、佐久地域において協議会の設置を行うこととなりました。

本日ここにご参集いただきました皆様は、高校所在市町村の首長、産業界の代表、識見者などでございまして、高校再編に幅広くご意見を賜れるよう、様々な分野の皆様にお声がけをさせていただいたところです。

佐久地域のすべての生徒が、自らの夢を見つけ、夢に挑戦する学びが実現できるよう、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を寄せていただければと思っております。簡単ではございますが、以上申し上げましてご挨拶とさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

3 協議会の設置

(事務局 若林佐久市企画課長)

設置要綱（案）の説明

(事務局 佐藤企画部長)

設置要綱（案）についてご承認いただけますでしょうか。

(委員)

<異議なし>

4 自己紹介

委員名簿に沿って自己紹介

5 座長選出

座長 柳田清二（佐久市長・佐久広域連合長）

6 協議事項

（1）協議会における協議の進め方について

（事務局 若林佐久市企画課長）

協議資料「佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会 協議会における協議の進め方」に基づき説明

【状況】

- ・県教育委員会が策定した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」において、佐久地域（旧第6通学区）の高校の再編計画の方向性が示されている。
- ・県教育委員会は、地域の協議会での意見を踏まえ再編・整備計画を確定していく。
- ・小諸では独自の検討組織が立ち上がり、協議を深めて来ており、地域内で一定の合意形成が進んでいる。

【協議の進め方】

- ・協議会には、将来を見据えた高校の学びのあり方などについて意見が求められていることを踏まえ、学びに重点化して協議を行う。
- ・特に、再編計画の方向にある「地域の中学生の期待に応える学びの場」については、重点的に協議・意見する。

【留意点】

- ・様々な関係者の意見を協議に活かすべく、佐久広域連合正副連合長会議、佐久地区市町村教育委員会連絡協議会などからの意見聴取に努める。
- ・小諸での合意形成を踏まえ、協議会の提言の先に地域からの詳細な要望が県教育委員会へ行われていく状況を勘案した議論とする。
- ・県教育委員会から示されているスケジュールでは、地域ごとの再編・整備計画を2021年の3月までには策定するとしており、その前期分として2020年3月には1次分を策定するとなっている。小諸の議論の深まりを勘案し、この1次分に間に合うよう、県教育委員会から示された12月末までに協議会の意見をまとめることとする。

(柳田座長)

説明のとおり協議を進めていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(委員)

<異議なし>

7 説明事項

(柳田座長)

続きまして、今後の協議に必要となる高校改革の概要や実施方針、佐久地域の高校の状況等について説明をいただきます。

(1) 「高校改革～夢に挑戦する学び～」概要説明

(内堀長野県教育委員会事務局高校改革推進参与)

資料に基づき説明

(柳田座長)

ただいまの説明について、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(西部委員)

資料2 ページ目の「これからを生きる子どもたちに育てたい力(1)」の文科省の図では、「主体性等」が一番上段に、「知識・技能」が一番下段に示していますが、この順番に意味は持たされているのでしょうか。

基礎的な知識・技能がない子は、上の主体性や、知識の活用までできないのではないかと不安に感じます。学力がないと、主体性や思考力などにも十分な成果が出ないのではというのが親の思いです。県としてはこの上位と下位の図についてどう考えているか教えていただきたい。

もう一つ、高校では「個別最適な学び」をしていくということですが、中学まではそれをできないと思います。なぜなら高校入試があるからで、3年間でやるべきことをやらないと高校に行けないという状況があります。その辺りの高校での県としての制度的な補填、ゆっくりやった人でも大丈夫という制度的な補填を検討されているのか、お聞きしたい。

(内堀長野県教育委員会事務局高校改革推進参与)

1点目についてですが、文科省の図ではこのように3層構造となっていますが、どちらが上ということではなくて、逆に書いて説明したこともあります。

実際にどういうイメージなのかは、資料5ページの「新しい「学び」創造 まとめ」になります。3つの要素をどのように身に着けていくかは「個別最適な学び」と「探究的な学び」のサイクルを成立させることによって、それぞれの力を高めていくということです。よって、ご意見ございました基礎学力がなければその次に行けないのではということではなく、一体的に様々な活動の中で3つの要素を育てていきたいという考えです。

次に2点目について、「個別最適な学び」というのは、1年間のプログラムの中において、その時点ごとに、どこが分からないのかということについて個別最適にやるということで、その手法としてテクノロジーを用いれば今までよりよく出来るということです。

受験ということを考える以前に、文部科学省でもこのような学びを行うと決まっている部分もありますし、一部分だけをやって終わりということもありませんので、一定のペースで進めていってということを想定しています。

ただし、個別最適な学習については研究中の部分もありますし、なにが正解ということもないかと思えます。それぞれの学校が研究しながら、こういったやり方がいいのではということを探っていきたいと考えています。

(西部委員)

やることは正しいことだと思いますので、制度との関連性を常に見て、制度のほうで柔軟に対応してもらえればと思います。

夢の実現に向け、従前より容易に転校できる仕組みを検討されているとありますが、このような取組もとても評価できると思います。

(柳田座長)

他にご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(関委員 (羽毛田委員代理))

8ページに「高大連携プラットフォーム」というのがありますが、考え方など具体的に教えていただきたい。

(内堀長野県教育委員会事務局高校改革推進参与)

まさに駅のプラットフォームをイメージしていただければと思います。そういったものを作ることによって、そこに乗る意志がある子どもたちすべてが、どこの学校に所属しているということは関係なく参加できるというものです。

今年度から作り始めたもので、例えば大学が行っている大学生向けの著名な外国の方の講演会に高校生も参加できるようにするといったことや、数日間に

渡ってロボットのようなものの講座を高校生も受けられるようにするといったものです。

そういったものを徐々にメニューとして整理して、そこに長野県の子どもたちが、通っている学校に関わらず、教員も含めて参加していくというイメージです。

(柳田座長)

他にご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(堀内委員)

説明をお聞きして感じましたが、既に大学においてはこういった学びの議論がされてきていまして、大学では、授業や演習のやり方においてご照会いただいたような様々な取組が出てきていると感じています。そのような中、大学の学生たちには自ら学ぶ力が身につけており、私たちが教えるというよりも、学生たちに教えられるということが多いと認識しています。学生たちを信じて育てていくというのが大事だと思いますし、私たちも一緒に育てているなど感じているところです。そして、高校が今後こうなっていくということの先に、中学校の教育がどうなっていくのかという議論も出てくるのではと感じました。

また、高大連携では、私たち大学ではいくつかの高校と協定を結んでいますが、プラットフォーム化してすべての高校、すべてが難しいとしても東信の地域の中でそういったことがうまくできればいいなと考えています。一つの高校と一対一ではなくて、全体と結びつけられればと考えています。

(柳田座長)

他にご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(西部委員)

資料4 ページの上段についてですが、新たな学びへの転換として、学校ごとに3つの方針を策定していくとあり、その1つとして生徒育成方針を作っているということですが、これは誰が主体で作っているのでしょうか。また、今後どのようにしていくのか考えがあれば教えていただきたいと思います。

高校が作るとすると、おそらく校長先生を中心にするのですが、校長はいずれ退任しますし、教師のメンバーも変わるわけで、現状いる人にそれを任せる不安があります。さらに出てきた方針の全体的なバランスを見る必要があると思いますので、県教委の方でバランスを取ろうとするのか、地域が入るのかその辺りをお聞かせいただきたい。

(内堀長野県教育委員会事務局高校改革推進参与)

基本的に、学校の中で学校長を中心に作成しています。一度中間的な段階で県教委に見せていただき、アドバイスをしてお返ししている段階です。学校によっては、すでに生徒や保護者に意見を求めたりしています。

県教委としては、学校の中で教員だけで決めるのではなく、生徒や保護者、あるいは地域のご意見を聞いて定めるようにというのは、かねてから申し上げているところです。

また、学校間の差異、バランスというものは、基本的には取らないとしています。それぞれの学校が主体的に自分の学校をどうしていきたいのかということ、ステイクホルダーである保護者や生徒、地域の皆様と意見交換しながら作っていく、そして一度作ったものは、何年間も変わらないということは考えていません。やってみて、ご意見を伺って変えていったほうが良いということであれば変えていくべきだと考えております。

(柳田座長)

よろしいでしょうか。他にご意見、ご質問等ありますでしょうか。

では、ただ今の説明につきましては、今後の議論の糧にさせていただければと思います。

続きまして、(2)について、本協議会の委員でもあります野沢北高校の北澤校長先生に、旧第6通学区校長会長のお立場からお話しいただきたいと思っております。

(2) 佐久地域高等学校 学びの改革の現状

(北澤委員 旧第6通学区高等学校長会会長)

資料に基づき説明 (主に資料4)

(柳田座長)

ただいまの説明について、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

(両角委員)

今説明のあった内容については、私ども立科町の地域高校である蓼科高校では、少なくとも信州学よりも5年も前の平成23年から「蓼科学」を先行してやっています。これが一つのベースになって、最終的には県が進める「信州学」というものが出来てきたと私は理解しています。また、私どもの地域、

学校は、長野大学を中心として大学との提携もしてきていますし、さらには地元の商工業、行政、様々なイベントにおいてもしっかりと高校が参加しながら連携をしております。従って私たちの地域では、今から学びの改革というよりは、すでにだいぶ前から学びの改革を進めてきたと感じています。

そのような中で、一つお聞きしたいのは、高校の先の大学を見据えて、お子さんも保護者も高校に進学されてくる。この学びの改革というのは時代に合っているのかもしれませんが、基本にあるのは、その子どもが将来にわたってどのような仕事に就くのか、どのような家庭を持っていくのかという部分で、やはりその前の大学という部分が大きなウェイトを占めると思います。そのようなことについて、この旧第6区通学区の中ではどのように議論が進められてきたのかお答えをいただきたい。

(北澤委員 旧第6通学区高等学校長会会長)

蓼科高校における「蓼科学」の取組については、私も承知しております。そして、平成28年度からすべての県立高校で「信州学」を実施しておりますが、平成27年度にはそのモデル校3校に蓼科高校も入っていたと記憶しております。

実は、「信州学」の取組については、各学校でこれまで取り組んできた内容が当然ある中、「信州学」を県でつくってこれをやりましょうということではなく、これまでの各学校の取組をベースに、探究的な学びという視点をより重点的に考えて、「信州学」という形で取り組んでいくとしています。

蓼科高校のように、5年前から実際にこのような取組をしているということ、他の学校でも参考にしながら、独自の取組をしていたものに探究的な学びという視点を取り入れて、「信州学」を再構築したというのが現状であるかと思えます。

次に、大学進学等についての考え方ということですが、この探究的な学び、学びの改革というものを考えていく前提というものが、いわゆる3大改革、大学教育の改革、高校教育の改革、高大接続改革があり、この3つが三位一体となって行っていくというのが、高大の改革となります。ですから当然、大学教育がこのように変わる、それに合わせ高校教育も変えていく、さらにそれを接続する入試制度も変えていく、といった形ですので、入試制度についても高等学校で学んだことが総合的に評価をされていくよう進められています。

(柳田座長)

よろしいでしょうか。他にご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(西部委員)

協議会での協議事項になるかと思えますし、高校の校長会の会長もいらっしゃるのでお願いもしたいのですが、私は、この協議会のメンバーにいるにも関わらず、それぞれの高校の実情を見たこともないし、授業の様子も見たことがありません。

それなので、是非、団体で行くと身構えてしまうと思うので、一協議会の委員として12月までの間にそれぞれの高校にお邪魔して見させてもらうことが可能かということとを是非ご検討いただければと思います。

(柳田座長)

事務局と協議をしまして、結果をお伝えしたいと思います。他にいかがでしょうか。

それでは、(3)「高校改革～夢に挑戦する学び～」実施方針説明について事務局から説明をお願いします。

(3)「高校改革～夢に挑戦する学び～」実施方針説明

(駒瀬長野県教育委員会事務局高校教育課教育主幹)

資料に基づき説明

(柳田座長)

ただいまの説明について、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

特にございませんので、説明事項については以上とさせていただきます。

8 意見交換

(柳田座長)

続いて、「8 意見交換」を行いたいと思います。

協議の進め方でもありましたとおり、この協議会の重点的な協議事項は、「地域の中学生の期待に応える学びの場」についてであります。意見交換の内容は、これに限るものではありませんが、その協議事項を見据えた形でのご意見出しをお願いいたします。

ご意見がある方は、ご発言をお願いします。

(小泉委員)

今日は、このような形で協議会の第1回開催が迎えられ、冒頭での協議会の進め方で話のあったとおり、子どもたちの学びの場を中心に話を進めていくと

いうことであります。

その中で一つは確認、一つはお願いとして、小諸のほうでは、ここにいらっしゃる掛川委員、吉沢委員にも出席いただいて、統合に向けた実行委員会というのをやってきました。一つは、この協議会において、こういうことをやってきたという発表が出来るものか。そういうことも知っていただきたいと考えています。

それから、この協議会では学びの場を中心にこの地域の意見をまとめるということなので、例えば小諸の場合は、小諸商業と小諸高校の同窓会、学校、PTA、経済界を含めて意見をもらってある程度まとまっています。その時に提案をどのような形でするのか。例えば、小諸で協議してきたものもこの協議会でまとめて県教委へ提出するものに含まれるのか。学びの場という総合的な話が県教委に提言され、各地域の要望に関しては個々に、この協議会とは別に小諸なら小諸の方で県に提出するのか。そこを確認させてください。

(柳田座長)

小諸については、これまでも熱心な議論があったところでございます。その取扱いについて事務局の方で考え方をお願いします。

(若林佐久市企画課長)

今回の12月2日の協議会において、佐久広域連合正副連合長会議や佐久地区市町村教育委員会連絡協議会から寄せられているご意見をインプットしていきたいと考えておりますので、小諸における実行委員会の経過や協議内容についても、そこでご報告いただく場を作ればと考えております。

また、提言の形ですが、全体として地域の学びの場ということをもとめさせていただく中で、小諸市の実行委員会の経過等も踏まえながら提言となるかと思いますが、より詳細については、本協議会から提言を出した後に、それぞれにおいて県教委のほうへ届けていただきたいと考えております。

(柳田座長)

よろしいでしょうか。では、そのような形で意見を出して行っていただきたいと思います。他に何かございますでしょうか。

(掛川委員)

前提として少子高齢化が進むという中で、この地域をどのような地域にしていくのか、佐久、小諸、軽井沢、御代田、東御を始めとする東信地域をどういう魅力的な地域にしていくのが課題です。私はこの地域は、子育てのしやす

い地域だと思っています。

先般、銀座 NAGANO に行った時に、この地域は非常に移住の希望者が多い地域であるということでした。今までは、この地域はどちらかというと東京へ人が出ていく地域であったと思いますが、今は逆になってきており、都会、他地域から人を呼び込める政策や魅力づくりが大事になってきています。

そのような中、高校でも、自分自身がやりたい勉強ができる、主体的に学ぶことができる、そうすることでこの地域に日本全国から高校生を呼び込むことができればと思います。また、少子化が進むと教室も余ってきます。それを活用して他地域の学生の寄宿舎にするというのも検討に値するのではないかと思います。さらに、今のデジタル社会の中においては、これから必ずアナログが必要になってきます。佐久平総合技術高校のように、新しいニーズが出てくると思います。

東信地域は、環境の面でも住みやすく、生活しやすく、生活コストも安いので、その利点をいかに PR していくかが必要かと思っています。東京一極集中は災害の面等を考えても問題ですし、意識の高い人たちは都会から田舎への動きをし始めていますので、そういった視点での検討も必要ではないでしょうか。

(柳田座長)

少子高齢化、人口減少という前提についてお話がありましたが、県教育委員会としては、どのようにお考えでしょうか。

(駒瀬長野県教育委員会事務局高校教育課教育主幹)

少子化という前提、今ご指摘いただいたご意見も考慮しながら進めたいと思います。

特に佐久地域は、それぞれの市町村が魅力ある地区だと考えておりますし、行政的にも各高校に支援をいただいております。そういう面も踏まえまして、高校づくりをしていきたいと考えております。

(柳田座長)

魅力ある高等学校づくりというのもこの協議会の議論の対象かと思っています。

少し補足させていただくと、当然市議会での議決をいただいたうえで予算化となりますが、来年度佐久市の事業としまして、望月高校が来年の4月から長野西高校のサテライト校となるのを受け、全国募集になることから、掛川委員からもありましたが、宿舎というものに対して支援を考えています。高校の下宿や寮というものを作ろうとする方に補助を出していくというものであります。

今は、ほとんど通学区は自由ですので、掛川委員さんのおっしゃるように通

学が難しい方のために、下宿などの支援するというのも考えていかなければならないかと思います。補足として佐久市の施策のお話しさせていただきました。他にご発言いかがでしょうか。

(西部委員)

実は私自身、小学校の教員をやった経験や高校受験の塾の先生をやった経験がございます。その中で、中学生が高校を選ぶときは、トイレがきれいなのか、廊下が広いのか、自分のやっている部活で上位に行く可能性があるのか、また、ほとんどの人は、より高い学力の学校へと考えています。

建物に関しては、先程お話がありましたので、どんどん進めていただきたいと思えますし、部活に関してはどうしても人口が集中しているところが強くなるのは致し方ないと思えます。

そして、最後の学力については、高いほうから順番に選んで決めていくというのが現状ですが、それを変えられることとしてすぐできることがあると思っております。それは先日、高校生が参加するラーメン甲子園というものがあつたのですが、そのことを中学生は誰も知らないのです。つまり高校で何をしているのか選ぶ中学生は何も知らないのです。この情報を伝えることは、すぐさま出来ることだと思うのです。その視点をこの議論の中に入れていかないと、選択する基準が学力だけになってしまうのは否めないと思えます。その辺りを、中高連携の中で情報共有できるようなシステムとして作っていただくのが重要だと思えます。

(柳田座長)

大変重要なお話かと思えます。どのような高校なのかということは選択する方にとっては大変重要なことだと思います。

他にご意見等ありますでしょうか。ないようですので意見交換は以上とさせていただきます。

9 その他

次回開催について

第2回 令和元年12月2日(月) 10時から
佐久市役所8階大会議室

10 閉会